平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ２８ ※記入不要	提案機関名	横浜川崎地域農業改良普及センター

要望問題　カーネーション土壌伝染性病害の総合的防除技術の開発

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

背景
　カーネーション生産においてフザリウムによる萎凋病や細菌性の萎凋細菌病が発生すると枯死株が発現するだけでなく、病気の汚染が水に乗って拡大し、収穫が激減してしまい農業経営に大きな打撃を受けることになる。本病害の発生を防ぐために、改植の際にクロルピクリン剤等の土壌消毒は実施しているが完全に防除は出来ず、病害は毎年発生している。

内容
　薬剤による防除技術のみでなく、根圏制御や低温マルチなどの耕種的防除も取り入れた総合的防除技術の確立が必要である。

対象地域および規模
　横浜市内３戸 35a

解決希望年限	①１年以内　[②２～３年以内]　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	[①研究所対応]　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	[①農業総合研究所]（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：生産技術部	
対応区分	①実施　[②実施中]　③継続検討　④実施済　[⑤調査指導対応]　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）
環境負荷の少ない土壌管理技術の確立

対応の内容等
　カーネーション栽培において土壌伝染性病害と思われる立枯れ症状は、横浜地域のみならず、本県全域に発生しており、近年被害が拡大しています。立枯れ症状には、萎ちょう病や萎ちょう細菌病の他にリゾクトニア菌でも症状が現れ、症状は類似しているので、その都度同定ができず、また対策も土壌消毒のみに頼っているのが現状です。
　薬剤以外の防除方法の一つとして、現在上記課題のなかでネコブセンチュウ防除を目的とし、熱水土壌毒と根域制限栽培との組み合わせによる防除技術について検討を行っています。
　その他の防除方法については、対象病害を特定し、対応可能な技術があれば、現地試験を含め試験課題として取り組んでいきます。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　[③４～５年以内]　④５～１０年以内
備　考	